

【事業者向け】児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2024 年 4 月 1 日

事業所名 ののはな

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12			20名定員に対し、延床面積200㎡以上ある建物となり十分なスペースが確保されている。
	2	職員の配置数は適切である	12			法令基準を大きく超える人員を配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12			活動・目的ごとに部屋を分けて、視覚化している。動線を意識し、どこで何をするのか、絵カードなどを用いて行動を掲示（視覚化）し、子どもたちに必要な行動を促せるように配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12			各部屋に子どもたちが覚えやすい名前を付け、活動内容に合わせて使用する部屋を分けている。朝夕のルーティンの清掃に加えて、適宜、清掃を実施している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10		2	定期的にミーティングを行い、話し合った改善項目・取り組むべき内容について、期日を設けるなど、定期的に確認を行っている。また本社管理部を通して人事考課を行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11		1	今年度は保護者の意向を元に保護者会を開催し、好評であった。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12			ホームページにて公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		10	2	今後、導入を検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		1	入社時研修やOJT研修の実施。外部研修や隙間時間でも研修可能なWEB研修の活用を行っている。また研修内容の報告と共有をしている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12			児童発達支援管理責任者を中心にアセスメントを行い、支援計画に反映している。内容については複数職員が参画し、皆で意見を出し合い、都度見直しが行われている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11		1	事業所独自のアセスメントシートを作成して運用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	1	1	児童発達支援管理責任者が社内で作成したアセスメントシートとヒヤリングした内容をもとに、保護者の意向を踏まえ、支援内容を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12			支援計画は職員全員に共有が行われ、計画に沿った支援が実施されている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	2	1	曜日での担当制を採用しているものの、児童発達支援管理責任者が中心になり月単位でプログラム内容をまとめている。職員間でねらい・目的なども相談しながら、プログラムを検討し、導入している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12			年間スケジュールを組み、詳細なプログラム内容を月単位で作成し、職員間でねらい・目的などを相談しながら、一つひとつのプログラムを検討している。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	12			集団活動がメインではあるが、活動の中で個別に配慮するなど、支援計画もそのように作成されている。	

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	1		始業時に朝礼を行っている。また朝礼不参加の職員へはホワイトボードなどを活用し、重要な連絡事項や共有を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	4	1	送迎業務等の兼ね合いで、全ての職員へ同時に行うのは難しいが、居る職員で共有を行い、翌日の朝などに不在だった職員へ伝えるなどしている。また、お互いの提供記録をダブルチェックする等支援の振り返りを実施している。LINEやスプレッドシートを活用した共有も同時に行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12			毎日の支援は必ず記録し、記録した者以外にも、複数の職員で内容を確認し、検証、改善が必要な際には、話し合いが行われる。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11		1	定期的、かつ職員の誰かが、必要と判断した際には、児童発達支援管理責任者へ相談を行い、モニタリングの見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12			基本的には児童発達支援管理責任者が中心に参加しているが、子どもの特性上、その子どもに精通した職員がいる場合は、その職員も一緒に参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10		2	定期的に行われる事業所連絡会や学校で開催される会議、また基幹センター主催の講習会に積極的に参加している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	10		2	児童発達支援管理責任者や看護師などを中心に、各関係機関と連絡を取りながら、サービス利用の導入、安定した継続利用など、連携した支援を行っている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11		1	受け入れの際の指示書の取得や児童のカルテの共有など、保護者を介して必要に応じて行っている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		4	実際の移行支援は発生していないが、適宜連携は行っており、行える体制はある。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		4	保護者のニーズによってとなるが、共有の必要がある児童に関しては進学先の小学校に情報共有をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12			市や基幹センターが主催する研修などに参加している。また必要のある児童に対しては適宜専門分野において共有・相談等を行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		11	1	今後、デジリハなどを使用して交流する機会を検討をしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8		2	主に管理者が参加しているが、今後、職員の参加も検討したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12			日々の活動記録、送迎時、電話、必要に応じて面談を設けるなど、日頃からしっかりと、やり取りを行っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9		1	2
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12			契約時に必ず実施している。

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12			作成した個別支援計画の支援内容は必ず説明・確認を行い、同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12			必要に応じて電話・面談にて相談の場を設けるなど、日頃からやり取りを行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	1	2023年度はご希望を伺い、保護者会を実施した。好評だったので、今後も定期的に行う機会を設けていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12			受付用の聞き取りシートを用意し、誰でも聞き取りが出来るようにしている。受付内容は管理者等に伝え、迅速な対応を行っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12			行事やイベント案内を定期的に行い、実施状況・活動の様子をフィードバックしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12			個人情報は鍵付きロッカーで保管している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12			個別のケースや特性に応じて配慮をしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		11	1	今後、検討していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12			管理者を中心に各種マニュアル作成を策定している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12			避難・災害訓練や消防署見学を行い児童に楽しく参加してもらえるように工夫している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12			子どもの状況の把握とともに、看護師を中心に対応についてまとめ、内容を共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12			エビペン利用がないかなどを含む子どもの情報を確認し、看護師が中心となり、対応についてまとめ、全体に周知している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12			1冊のファイルにまとめ、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12			全ての職員が、年1回研修を実施している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12			身体拘束が必要な場面が想定される児童に関しては予め契約時に説明を行い承諾を得ている。ただし、現状は身体拘束が必要な場面はない。